

大い隠された 女子医大 東京手術 東手

「以前の改ざん参考に」

瀨尾容疑者 90年代初頭に目撃

東京女子医大病院の心臓手術ミス・隠ぺい事件で、証拠隠滅容疑で逮捕された執刀医の瀨尾和宏容疑者(46)が看録記録などの改ざんについて、90年代初めに医局で行われた心臓手術で、担当医師らが看録記録などを改ざんしたのを見たことがあり、参考にしてしまったと周辺に話していることが分かった。瀨尾容疑者は、このケースを「医局内では公然の秘密だった」とも述べており、隠ぺいを黙認しかねない病院の体質が、今回の事件の温床になった疑いが浮上した。

関係者によると、90年代初め、今回の事件と同一循環器小児外科で男児が心臓手術を受けたが、ミスによって脳や全身に重い障害が残った。手術を担当した医

師と同じ医局に所属していた瀨尾容疑者は、手術後に担当医師ら数人が集まって看録記録などの記載内容を書き換えているのを目撃したという。

当初、病院側は、男児の容体を両親に「異常はない」と説明した。数週間後に両親が医師に問い詰めてようやく「脳に障害が起きたようだ」と話したが、ミ

スは認めなかったという。瀨尾容疑者は、過去のこうした対応を参考にし、昨年3月の平柳明香さん(当時12歳)の心臓手術後、部下の佐藤一樹容疑者(38)業務上過失致死容疑で逮捕による人工心肺装置の操作ミスを隠すため、看録記録の改ざんや人工心肺装置の作動記録の偽造を行ったという。

病院を相手に損害賠償訴訟を起こし、1審判決は「手術ミスで脳などに障害が起きた」と認め、病院に賠償を命じた。高裁で和解が成立したが、両親は「手術記録に経過の詳しい記載がないことを最初から疑問に感じていた。説明もあいまいで、ひどい対応だった」と話している。

瀨尾容疑者は逮捕前、毎日新聞の取材にも「過去に医局で見聞きした

改ざん認める
供述を始める

瀨尾容疑者

(別の改ざんの)ケースは警察で話した」と述べ、男児の手術を担当した当時の医師は、毎日新聞の取材に「お話しすることはありません」と述べた。瀨尾容疑者は逮捕直後は「(改ざんを)指示したが、自分はやっていない」と供述していたが、一部を女性看護長(54)に証拠隠滅容疑で書類送検に依頼して書き直させ、残りを自ら書き換えたことを認めたという。関係者によると、瀨尾容疑者は明香さんが死亡した3日後の昨年3月8日、臨床工学士(心臓)のほかに、部下の執刀医にも人工心肺装置の記録の偽造を指示したが、拒否されていたとい

女子医大小児心臓手術事故

改竄

2002年7月3日 毎日新聞